

テーマ：『 自然とふれあいながら、児童が生きる力をはぐくむことができる学校づくり 』

横浜市立

新吉田第二小学校

Tel. 045-592-6905

担当者 大島 賢三



#### ■実践内容:

- ①低学年は、身近な生き物や草花の飼育・栽培の方法を考えた。また、2年生ではプールでのやごとりからトンボの飼育を行った。トンボが羽化するたびに歓声をあげ、意欲的に活動した。
- ②4年生は、ツルレイシのグリーンカーテンづくりに取り組んだ。夏の日差しを遮るグリーンカーテンに「涼しいね」と効果を実感していた。
- ③5年生は、校内での田んぼづくりに取り組み、毎日の観察と世話をした。稲が豊かに実り、10月中旬に刈りいれて乾燥させている。収穫の喜びに笑顔があふれた。
- ④全校で早渚川のクリーンアップ活動に取り組んだ。6年生が早渚川の自然環境について考えるきっかけとなった。
- ⑤個別支援学級では、早渚川の生き物採集やクリーンアップ活動に積極的に取り組んだ。全校に向けて、早渚川について分かったことを発信する準備をしている。

#### ■実践成果:

- ①身近な生き物や草花にふれることによって、校区内のどこにどんな生き物や草花があるか詳しく知ることができた。2年生はトンボが産卵できるようにプールの環境を整えるなど、来年度に向けての活動につながった。
- ②グリーンカーテンで、自然の力によって暑さ対策をできることに気づき、地球温暖化など環境問題へ意識を広げることができた。自分達が日々できることについて話し合っ考えるきっかけとなった。
- ③田んぼの土から自分達の手でつくりあげ、次々に起こる問題の対処を真剣に考えたことによって農業の大変さやすばらしさを考えることができた。育っていく稲を観察しながら、気候や虫などの被害によって稲の成長が左右されることを知り、農業が周りの自然と密接な関係をもつことに気づくことができた。
- ④早渚川に落ちているゴミの量から、身近な自然を守るために自分達にできることを考えるきっかけとなった。
- ⑤生き物の種類や住処の様子を知り、今後も早渚川の生態系を守るためにできることを考えることができた。

#### ■実践ポイント:

身近な環境を生かした活動をすることによって、児童が「自分達も自然の一部」「生き物や植物とふれあうすばらしさ」などについて実感できるように工夫した。自発的に「校区の自然を守るためにできることは何だろう」と考えることができるよう努めている。そのために、採集・飼育・観察がしやすいような用具をそろえた。